

## 上手に縄ないできるかな?

全国縄ない選手権 in バッター村を開催

全国縄ない選手権大会 in バッター村（同実行委員会主催）は9月21日、バッタリー村で開催されました。大会には素人からベテランまで約30人が参加。持ち時間内に



集中！一生懸命縄をなう参加者

どれだけ長く美しく縄をなえるかを競いました。

個人戦・経験者の部（時間2分）では滝沢村の女性が2m58cmと、この日最長の長さを記録。縄目もきれいにそろい文句なしで優勝を決めました。一方、5人が交代で1本の縄をなう団体戦（時間5分）では地元のバッタリーチームが見事優勝しました。「全国」と名が付く大会だけあって遠くは長崎県や岡山県からの選手も。参加者は交流を深めながら山村文化の魅力を実感していました。



全6試合場で展開される熱戦に観客の注目が集まります



「ヤー！」と思いつき相手に飛び込んで技を掛ける選手。「絶対に勝つ」という気合いがみなぎっています



柔道教室で生徒の技をチェックし、アドバイスを送る山本洋祐氏（左）

## 700人の大熱戦!

三船十段杯争奪柔道大会を開催

第46回三船十段杯争奪柔道大会（市など主催）は9月7日、市民体育館で開催されました。大会には福島県を除く東北5県から700人以上の選手が参加。小学校、中学校、高校、一般の各部門に分かれて熱戦を繰り広げました。

今回から設けられた団体戦・高校以上女子の部では久慈高校が県内外の強豪校を破って見事優勝。同校の浅水結絵主将（2年）は「新チームになって初めての大会で優勝できてうれしい。この成果を今後の大会にもつなげたい」と次の目標を見据え、闘志を燃やしていました。

大会前日は昭和62年の世界選手権優勝者で、日本体育大学の山本洋祐准教授を講師に迎えて柔道教室を開催。参加した約130人の小・中学生は目を輝かせながら講師のアドバイスに聞き入っていました。

## 広報リポーターのコーナー

広報リポーターがまちの話題を紹介します!

親家族的な敬老会が深まる



町内会の特色ともいえる紙芝居を披露

夏井駅前町内会（岡田勉会長）主催の敬老会が9月14日に開催され、出席者が少人数ながら家族的な敬老会で盛り上がりました。披露された手作りの紙芝居には出席者も童心に返り涙を流しながら聞き入っていました。（生平隆リポーター）

車に近場で見る山に興味津々



山車に興味を深める子どもたち

大川目小学校（高橋岩男校長）の2年生21人は9月16日、備前組（三上昌明組頭）の手作り山車を見学。子どもたちは山車の勇壮さときめ細かに作られた人形などに触れ、秋まつりに思いをはせていました。（小倉利之リポーター）

## 道草してってけでー

産直・塩の道草ほれーらが開店



地域住民などが見守る中、開店を迎えたほれーら

山根町木売内地区に8月7日完成した塩の道草交流館の産直「ほれーら」が9月7日、開店しました。炭火で焼いた豆腐田楽の香ばしい匂いが漂うなか、建物の前には地域の人たちが持ち込んだ野菜やキノコなどがずらり。初めてのことで準備も販売も手探りながら、無事に迎えられた開店を地域住民や関係者は笑顔で喜んでいました。

施設の建設を発案した塩の道草の会の関利行会長は「交流の場として地域の活性化につなげていきたい。急がずゆっくりと地域とともに育てていく」と意気込みを語っていました。

※ほれーらの次の開店は10月5日（日）10時～

## 進む整備に地域も感謝

日野沢地区雑用水施設通水式・館石橋橋名板除幕式

日野沢地区の営農飲雑用水施設の通水式は8月28日、日野沢館石橋付近で行われました。主催した日野沢地区活性化推進協議会の出町丈夫会長が「現在ほぼ全戸が通水し、地域で大変喜んでいる。今後も地域の活性化に努めていきたい」と喜びと感謝の気持ちを込めてあいさつ。来賓の山内隆文市長と和嶋憲男久慈地方振興局長の祝辞の後、テープカットと通水確認が行われました。

この日は館石橋橋名板の除幕式も。日野沢小学校（佐々木政文校長）の児童8人が自分たちで書いた



放水で見事にくす玉を割った通水確認

橋名板をお披露目すると大きな拍手が沸き起こりました。

これらの施設整備は国、県、市が費用を負担し平成13年度から始まった県営中山間地域総合整備事業の一環。農道整備なども含まれる同事業は来年度終了する予定です。

## 歌楽しんで笑顔広がる

みずき園で清&絢子さんがチャリティーコンサート



清&絢子さん（中）が歌う「どんと来い! 岩手」に合わせて園の利用者らも踊りを披露

演歌「どんと来い! 岩手」などで知られる歌手の清&絢子さん（本名・秋本清、絢子）は8月30日、みずき園（間加壽子園長）でチャリティーコンサートを行いました。清&絢子の2人はおもしろおかしなトークを交えながら計7曲を熱唱。園の利用者や施設関係者など約130人は手製のうちわを叩きながら笑顔で楽しんでいました。

二戸市出身の絢子さんは「障がい者も接する健全者も皆、明るく元気でうれしかった。歌を続けられるのも笑顔のおかげ」と、にっこり。

清&絢子さんは埼玉県で水道業を営む傍ら歌手として活動中。出演料やCDの売り上げすべてを費やし、全国各地に計314台の車いすを寄付しています。